

南魚沼市消防本部

Minamiuonuma City

新刊

Fire Department



50<sup>th</sup>  
Anniversary

常備消防50周年記念誌の作成にあたり、テーマを「翔」といたしました。「翔」は、「とぶ・かける」「めぐる・振り返る」「つまびらか」という意味だけでなく、「空高く飛ぶ」という意味も併せ持ち、勇壮に大きく羽ばたく様子やスケールの大きさを連想させる漢字です。消防吏員として「高い目標に向かって努力する」、「助けを求めている人のもとへ飛び駆けつけるヒーローのような存在でありたい」という願いを込めています。

---

## 常備消防50周年を迎えて

このたび、南魚沼市消防本部は、昭和45年1月の常備消防発足以来50周年を迎えることとなりました。発足当時は1本部1署25人体制でスタートした組織も、現在は1本部2署1分署106人体制の組織となりました。平成18年度に南魚沼地域広域連合の解散を経て、現在の組織体制となり、湯沢町から業務委託を受け1市1町の消防業務に当たっております。

この間に社会全体も大きく様変わりしました。国全体として、生活水準の向上や生活環境の都市化が進む一方で、少子高齢化の進行が深刻となり、大きな課題となってきております。

この50年を振り返りますと、過去に発生した特異的な災害としては、昭和52年7月に上越新幹線湯沢北工区で発生したトンネル火災、昭和63年3月にJR上越線湯沢町地内で発生した「アルカディア号」の列車火災、平成24年5月には建設中の国道253号八箇峠トンネル内爆発事故などがありました。その後は大きな災害は発生していないものの、登山者による山岳遭難事案が多発しており、冬期にはバックカントリースキーでの遭難事案が発生するなど、関係機関と連携しながら、年間を通して山岳救助事案に対応しているところであります。

近年は、全国的に地震や豪雨による自然災害が多発しており、消防に寄せる期待や信頼は大きく、消防の役割はますます重要なものとなっております。常備消防発足50周年を迎え、消防がこれまで培ってきた成果と教訓を基に、今後も住民の安心・安全のため、消防団を含めた消防関係機関が一丸となって最善の努力を続けてまいります。

今日まで限りなく深いご理解とご支援を賜りました地域住民の皆様方に心から感謝を申し上げ、この地が明るく豊かで住みよい南魚沼地域となりますよう、今後ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



南魚沼市長  
林 拓史



南魚沼地区支会長  
南魚沼市消防団長  
**井 春文**

## 記念誌発行にあたり

昭和45年、六日町塩沢町消防事務組合として常備消防が発足して50年を迎えました。携わってこられた関係者の方々、また昭和23年自治体消防設置以降現在の消防組織の礎を築いてこられた先人たちへ敬意と感謝を申し上げます。

この50年の間、さまざまな出来事がありました。大規模火災、豪雨、豪雪災害、山岳搜索等々、その都度常備消防と非常備消防が車の両輪の如く協力し地域住民の生命、身体、財産を守って来ました。そして新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、そして東日本大震災は我々に大きな教訓を残し現在の各訓練、活動に生かされています。

平成18年、3町合併後、常備は南魚沼市消防本部に、平成19年、3町消防団は再編による組織改革も含め南魚沼市消防団1団、3方面隊体制となりました。また各部に1台の車両の配備で機動性が格段に良くなりました。団員数は令和元年12月31日現在で2,218名（内女性消防隊28名）。

新体制確立後もそれぞれの方面隊の特色を生かしながらも、1団体制としての纏まり、情報の共有、協力体制は他に引けをとらないものと確信しています。

平成26年には南魚沼市消防団女性部を設立。平成29年女性消防隊と改称、隊員数は28名で、防火広報、幼児高齢者防災指導、救急講習、外国語指導、消防団としての規律訓練、そしてポンプ操法訓練等を行っています。平成28年から行っているポンプ操法は、令和元年11月に開催された第24回全国女性消防操法大会に出場しました。

今50周年を迎え、これまで培ってきた伝統、技術、チームワーク、地域住民との繋がり等々の特色は、今後も絶やすことなく引き継いで行かなければならず、多様化する災害にも対処していかなければなりません。

これからも常備消防と手を携え、地域の安心・安全を守り、住民との架け橋となるよう、全力を挙げ取り組まなければならないと思います。今後ご指導、ご協力をお願い致します。

# 管内の消防力

令和元年12月31日現在

## 南魚沼市

面積 584.55km<sup>2</sup>

人口 56,196人

世帯数 20,068戸



南魚沼市消防署

## 湯沢町

面積 357.29km<sup>2</sup>

人口 8,271人

世帯数 4,065戸



湯沢消防署



大和分署

南魚沼市  
消防本部  
・署  
(2署1分署)

消防ポンプ自動車 3台

救急車 5台

水槽付ポンプ自動車 2台

指揮隊車 2台

化学消防車 1台

指令車 3台

はしご自動車 1台

積載車 3台

救助工作車 1台

その他車両 5台

水槽車 1台

消防職員 106人

# 管内の消防力

令和元年12月31日現在

## 南魚沼市消防団

団長 1人

女性消防隊 28人

## 塩沢方面隊

消防ポンプ自動車 4台

小型動力ポンプ付積載車 6台

小型動力ポンプ付軽自動車 20台

小型動力ポンプ 29台

消防団員 787人

## 六日町方面隊

消防ポンプ自動車 3台

小型動力ポンプ付積載車 9台

小型動力ポンプ付軽自動車 17台

小型動力ポンプ 31台

消防団員 790人

## 大和方面隊

消防ポンプ自動車 3台

小型動力ポンプ付積載車 6台

小型動力ポンプ付軽自動車 14台

小型動力ポンプ 26台

消防団員 612人

## 湯沢町消防団

消防ポンプ自動車 4台

小型動力ポンプ付積載車 9台

小型動力ポンプ付軽自動車 5台

小型動力ポンプ 6台

消防団員 307人



消防団車両

# 50年のあゆみ（昭和44年～令和元年）

## 昭和44年

- 4月 ・ 六日町・塩沢町消防事務組合発足。魚沼消防本部を六日町役場に置き、職員4名で業務を開始
- 12月 ・ 消防庁舎完成（塩沢町竹俣地内）

## 昭和45年

- 1月 ・ 消防署（署長以下25名）発足、業務開始（職員22名採用）
- 2月 ・ 大和町消防団、日本消防協会長より竿頭授受章
- 3月 ・ A級救急車を購入し、救急業務を開始
- 8月 ・ 民間医療機関よりB級救急車が寄贈される
- 12月 ・ 水槽付消防ポンプ自動車購入



魚沼消防本部・署

## 昭和46年

- 3月 ・ 塩沢町・六日町の両消防団、消防庁長官より竿頭授受章

## 昭和47年

- 2月 ・ 六日町消防団、日本消防協会長より表彰旗受章
- 4月 ・ 湯沢町・大和町の加入により、組合名称を魚沼消防事務組合に改称
- 8月 ・ 第1回全国消防協会東北支部救助指導会「ロープブリッジ渡過」に新潟県代表として出場
- 9月 ・ 第1回全国消防救助技術大会「タイトロープ」に東北地区代表として出場（東京・豊島園）
- 10月 ・ 湯沢町・大和町に分署庁舎完成。職員16名採用し、業務開始

## 昭和48年

- 9月 ・ 中部消防応援協定会議を六日町で開催。火災・救助・救急訓練を実施
- 10月 ・ スノーケル車（16m級）を購入し、本署に配置

## 昭和49年

- 2月 ・ 消防本部・署庁舎増築  
・ 湯沢町消防団、日本消防協会長より表彰旗受章
- 10月 ・ 新潟県総合防災訓練を六日町にて開催



中部消防応援協定会議救助訓練

## 昭和50年

- 8月 ・ 第26回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」で六日町消防団チーム3位入賞

## 昭和51年

- 6月 ・一部事務組合を解散し、南魚沼郡広域事務組合となる

## 昭和52年

- 7月 ・上越新幹線湯沢トンネル北工区で火災が発生（負傷者40名全員救出される）



新幹線トンネル工事現場火災

## 昭和53年

- 2月 ・豪雪対策本部4町に設置（豪雪による死者2名、負傷者10名）
- 6月 ・魚沼地方集中豪雨（三国川破堤、被害総額161億円）
- 8月 ・第29回新潟県消防大会が六日町で開催。ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」で六日町消防団チーム2位入賞

## 昭和54年

- 2月 ・大和町消防団、日本消防協会長より表彰旗受章
- 8月 ・第30回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・小型の部」で湯沢町消防団チーム3位入賞
- 11月 ・湯沢町に無線サイレン吹鳴装置設置

## 昭和55年

- 3月 ・救急医療情報システム導入
- 11月 ・消防100年記念消防団全国大会開催

## 昭和56年

- 1月 ・56豪雪、豪雪対策本部4町に設置
- 2月 ・坂戸スキー場で表層雪崩発生（軽傷者1名）
- 8月 ・8.23水害発生。集中豪雨により魚野川氾濫、六日町市街地を中心に大きな被害が発生（被害総額約47億円）
- 10月 ・防火対象物表示公表制度の施行
- 12月 ・消防庁C型救急指令措置を導入、稼働開始



坂戸スキー場雪崩発生捜索状況

## 昭和57年

- 3月 ・魚沼消防本部・六日町消防団消防庁長官より表彰旗受章
- 4月 ・消防相互応援に関する協定締結（利根沼田広域市町村圏振興整備組合、南魚沼郡広域事務組合）
- 5月 ・南魚沼郡防火協会設立
- 8月 ・第33回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防署・自動車の部」で魚沼消防署2位入賞



## 昭和58年

- 4月 ・第2次消防整備計画の策定
- 9月 ・消防ポンプ自動車（CD-II型）更新して本署配置
- 10月 ・関越自動車道小出・六日町間相互消防応援協定締結
- 12月 ・六日町大字泉新田で工場火災（焼失面積3,143㎡）

## 昭和59年

- 2月 ・59豪雪、4町豪雪対策本部を設置
- 3月 ・湯沢町消防団、消防庁長官より竿頭授受章
- 6月 ・救助訓練塔完成
- 9月 ・新潟県総合防災訓練を湯沢町にて開催
- 12月 ・湯沢町消防団、消防庁長官より特別表彰受章（雪崩災害の救助活動による）

## 昭和60年

- 9月 ・湯沢町消防団、内閣総理大臣より表彰受賞（雪崩災害の救助活動に対して受賞）  
・関越トンネル総合防災訓練実施
- 12月 ・化学消防車を購入し、本署に配置



関越トンネル総合防災訓練

## 昭和61年

- 11月 ・六日町少年婦人防火委員会設立

## 昭和62年

- 3月 ・大型救助工作車を購入し、本署に配置
- 7月 ・第16回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
- 8月 ・日本消防協会長 笹川良一氏 特別講演（湯沢町公民館）
- 11月 ・水槽付消防ポンプ自動車を購入し、両分署に配置

## 昭和63年

- 3月 ・J R上越線土樽地内で、パノラマ展望列車「アルカディア号」火災発生
- 7月 ・第17回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
- 12月 ・湯沢町西中ビルで火災発生（子ども2名焼死）



パノラマ展望車「アルカディア号」列車火災

## 平成元年（昭和64年）

- 4月 ・ 消防緊急情報システムⅡ型を導入し、稼働開始  
・ 順次指令装置及び新テレホンガイドを導入
- 8月 ・ 第40回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」で六日町消防団チーム3位に入賞

## 平成2年

- 1月 ・ 新潟県広域消防相互応援協定締結
- 3月 ・ 塩沢町消防団、消防庁長官より表彰旗受章
- 4月 ・ 指令室に地図検索装置、自動気象観測装置を導入
- 7月 ・ 第19回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出、ロープブリッジ渡過」に新潟県代表として出場（山形市）

## 平成3年

- 7月 ・ 第20回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）

## 平成4年

- 1月 ・ 湯沢分署 新庁舎移転竣工
- 7月 ・ 南魚沼幼少年婦人防火委員会設立  
・ 第21回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出」に新潟県代表として出場（秋田市）
- 9月 ・ 六日町婦人防火クラブ結成
- 10月 ・ 南魚沼郡内幼少年消防クラブ合同結成
- 12月 ・ 35m級はしご車を購入し、湯沢分署に配置

## 平成5年

- 4月 ・ 第4次消防整備計画策定
- 5月 ・ 湯沢町消防団、消防庁長官より表彰旗受章
- 8月 ・ 第44回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団小型の部」で塩沢町消防団チーム第1位（第2分団第10部）
- 11月 ・ 湯沢分署救助訓練塔完成  
・ 救急車に患者監視装置（プロパックモニター）を装備



新潟県消防大会ポンプ操法競技会 小型ポンプの部で優勝した塩沢町消防団

## 平成6年

- 7月 ・第23回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「引揚げ救助、ロープブリッジ救出、ほふく救出」に新潟県代表として出場（福島市）
- 10月 ・塩沢町消防団第2分団第10部、第14回全国消防操法大会出場（横浜市）
- 11月 ・火災予防一日消防署長街頭パレード実施
- 12月 ・各町消防団に小型動力ポンプ軽積載車を貸与  
・大和分署 新庁舎移転竣工



一日消防署長街頭パレード

## 平成7年

- 4月 ・新潟県消防防災ヘリコプター運用開始（防災ヘリコプター応援協定締結）
- 7月 ・第24回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）  
・第46回新潟県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・自動車の部」に六日町消防団チーム3位入賞
- 9月 ・塩沢町婦人防火クラブ結成  
・大和分署にヘリコプター給油施設設置
- 11月 ・消防車庫を本署庁舎裏に新築

## 平成8年

- 2月 ・新潟県情報通信ネットワーク衛星通信サービス開始（本署庁舎屋上衛星端末局アンテナ設置）  
・湯沢分署に消防ポンプ自動車（兼救助工作車）を購入し配置
- 4月 ・救急救命士誕生  
・南魚沼郡山岳遭難防止対策協議会へ加入
- 5月 ・放射能防護服、放射能測定器配備
- 7月 ・第25回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出、ロープ登はん」に新潟県代表として出場（青森市）
- 12月 ・蒲原沢土石流災害の捜索に応援出場（第1次隊、第5次隊。長野県小谷村）  
・25m級はしご車を購入し本署に配置



長野県蒲原沢土石流災害現場への応援出動

## 平成9年

- 4月 ・第5次消防整備計画策定
- 7月 ・第26回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ほふく救出、ロープ登はん、ロープ応用登はん、ロープブリッジ救出」に新潟県代表として出場（仙台市）
- 9月 ・湯沢分署に救急車を増車して2台体制とする

## 平成10年

- 3月 ・本署に高規格救急車購入配置

## 平成11年

- 1月 ・本署、小型ポンプ付水槽車を新規配置
- 7月 ・普通救命講習（一般住民、消防団及び事業所等を対象）を実施
- 8月 ・上級防火管理者講習

## 平成12年

- 2月 ・湯沢分署に高規格救急車を導入配備
- 4月 ・関越トンネル内救急業務を道路公団より引き継ぐ
- 7月 ・第29回全国消防協会東北地区支部消防救助技術指導会「ロープ登はん」に新潟県代表として出場（新潟市）
- 8月 ・第51回県消防大会ポンプ操法競技会「消防団・小型の部」で湯沢町消防団チーム5位入賞
- ・大規模災害消防応援総合訓練に救助隊出場（長岡市）
- 9月 ・城山トンネル覚書締結（小出郷消防本部）



多数傷病者救護訓練

## 平成13年

- 1月 ・本署非常用自家発電設備を設置
- 2月 ・スキー場で雪崩災害（大和町大字五箇 軽傷者1名）
- 3月 ・南魚沼郡広域事務組合を解散し、南魚沼郡広域連合を設立
- 8月 ・六日町欠ノ上地内に消防防災ヘリコプター緊急離着陸場を設置
- 12月 ・塩沢町消防無線サイレン新設

## 平成14年

- 4月 ・南魚沼メディカルコントロール協議会設立
- 8月 ・自治体境界道路トンネルにおける災害出場等に関する覚書締結
- 11月 ・大和町婦人防火クラブ結成

## 平成15年

- 4月 ・第6次消防整備計画策定
- 8月 ・第54回新潟県消防大会を湯沢町で開催



新潟県消防大会（湯沢町）

## 平成16年

- 4月 ・全国消防長会東北支部総会（湯沢町）
- 7月 ・新潟・福島豪雨（7.13水害）（13日～15日 災害応援）
- 10月 ・新潟県中越地震発生（25日～31日 十日町市へ災害応援）
- 11月 ・六日町、大和町が合併し、南魚沼市となる  
・南魚沼郡広域連合を南魚沼地域広域連合に名称変更



見附水害復旧応援



新潟県中越地震（長岡市）

## 平成17年

- 4月 ・緊急消防援助隊登録（消火隊・救助隊・救急隊各1隊）
- 10月 ・南魚沼市と塩沢町が合併  
・携帯119受信装置整備運用開始

## 平成18年

- 1月 ・平成18年豪雪。市町に豪雪災害救助法適用
- 4月 ・南魚沼地域広域連合を解散、南魚沼市消防本部となる。湯沢分署を湯沢消防署に格上げ  
・南魚沼市六日町消防団、南魚沼市大和消防団、南魚沼市塩沢消防団と改名

## 平成19年

- 4月 ・六日町消防団、大和消防団、塩沢消防団を合併し、南魚沼市消防団1団体制となる
- 7月 ・新潟県中越沖地震発生（16日～26日 柏崎市へ災害応援）
- 9月 ・北越急行との合同訓練。参加人員75名
- 10月 ・県立六日町病院多数傷病者合同救助訓練。参加人数200名



中越沖地震（柏崎市）

## 平成20年

- 3月 ・自治体消防60周年記念式典（日本武道館）において、南魚沼市消防団塩沢方面隊が日本消防協会長特別表彰「まとい」受章
- 8月 ・第37回全国消防救助技術大会（北九州市）に引揚救助チームが初出場

## 平成21年

- 8月 ・第38回全国消防救助技術大会（横浜市）にロープブリッジ救出チーム、ロープブリッジ渡過が出場し、入賞

## 平成22年

- 2月 ・南魚沼市消防団が日本消防協会長から表彰旗を受賞
- 8月 ・第39回全国消防救助技術大会（京都）に引揚救助チームが出場し、入賞
- 11月 ・南魚沼市・湯沢町危機管理フォーラム2010開催



第39回全国消防救助技術大会

## 平成23年

- 1月 ・平成23年豪雪。市に豪雪災害救助法適用
- 3月 ・東日本大震災発生。緊急消防援助隊として宮城県石巻市へ出動。延べ派遣人員276名
- 7月 ・新潟・福島豪雨災害発生。消防団員延べ4,400名出動
- 9月 ・消防本部新庁舎供用開始
- 11月 ・緊急消防援助隊の活動について総務大臣表彰を受賞



新潟・福島豪雨航空写真（浦佐地内）



東日本大震災



東日本大震災派遣隊

## 平成24年

- 1月 ・南魚沼市に豪雪対策本部設置
- 2月 ・南魚沼市全域に災害救助法適用  
・南魚沼市消防団が防災功労者消防庁長官表彰を受賞
- 5月 ・国道253号八箇峠トンネル内爆発事故発生。新潟県広域消防相互応援協定により、  
県下14消防本部から48隊233名の応援を受ける
- 10月 ・新潟県ドクターヘリ運用開始



八箇峠トンネル爆発事故

## 平成25年

- 2月 ・南魚沼市に豪雪対策本部設置  
・六日町地域、大和地域に災害救助法適用  
・塩沢地域に新潟県災害救助条例適用
- 4月 ・初の女性消防吏員採用
- 9月 ・南魚沼市消防団が防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞

## 平成26年

- 3月 ・消防本部 訓練塔竣工
- 4月 ・南魚沼市消防団に女性部設立
- 5月 ・消防救急デジタル化事業本体工事の整備事業開始



消防本部訓練塔



南魚沼市消防団女性部発足式

## 平成27年

- 7月 ・南魚沼市消防団女性部総務大臣感謝状  
拝受
- 8月 ・第44回全国消防救助技術大会（神戸）  
に引揚救助チームが出場し、入賞



第44回全国消防救助技術大会（神戸）

## 平成28年

- 4月 ・消防救急デジタル無線の整備が完了し運用開始
- 8月 ・第45回全国消防救助技術大会（松山市）にロープブリッジ救出チームが出場し、  
入賞
- 12月 ・湯沢消防署配備の35m級はしご車を  
老朽化により廃車。南魚沼市消防署配  
備の25m級はしご車を湯沢消防署に  
配置換えする
- ・糸魚川市大規模火災発生（糸魚川駅北  
大火）。22日・23日、新潟県広域消  
防応援協定に基づき、消火隊を応援  
派遣



糸魚川駅北大火

## 平成29年

- 3月 ・新潟ドクターヘリ2機目運航開始
- 8月 ・第46回全国消防救助技術大会（宮城県）にロープブリッジ救出チームが出場
- 10月 ・ハラスメント防止宣言
- 12月 ・化学消防車を更新



西部ドクターヘリ運航式



南魚沼市消防署 化学消防車



## 平成30年

11月 ・湯沢消防署 訓練塔竣工

12月 ・南魚沼市消防署 13mブーム付き多目的消防自動車配置



13mブーム付き多目的消防自動車



湯沢署 訓練塔

## 令和元年 (平成31年)

2月 ・南魚沼市消防署 救助工作車更新

9月 ・大和分署 訓練塔竣工

10月 ・台風19号災害発生。緊急消防援助隊として長野県長野市へ出動

11月 ・中部消防応援協定協議会総会を南魚沼市で開催

・南魚沼市消防団女性消防隊 第24回全国女性消防操法大会に出場（横浜市）



大和分署 訓練塔



台風19号 緊急消防援助隊



第24回全国女性消防操法大会

# 消防団



出初式



全国女性消防操法大会

## 救急業務



救急技術発表会



救急講習会

## 通信指令業務



通信指令室



大峰山基地局 (湯沢町)

## 予防業務



防災スクール



火災原因調査



防火パレード

# 警防業務



公園内40 t 耐震性貯水槽



消防団軽積載車



消防長査閲



消火栓調査



消防団車両整備

## 各種訓練 (救助訓練)



水難救助訓練



リフト救助訓練



山岳救助訓練



冬山救助訓練



車両救出訓練



沢登行訓練

## 各種訓練（救急訓練）



消防長救急査閲



救命救急訓練



ドクターヘリ合同訓練



## 各種訓練 (消防訓練)



防災ヘリ合同訓練



キャブス (圧縮空気泡消火装置)



緊急消防援助隊訓練

# 救助技術大会

## 全国大会

- H 20. 8.29 第37回 (北九州市) 引揚救助
- H 21. 8.20 第38回 (横浜市) ロープブリッジ救出  
ロープブリッジ渡過
- H 22. 8.27 第39回 (京都市) 引揚救助
- H 27. 8.29 第44回 (神戸市) 引揚救助
- H 28. 8.24 第45回 (松山市) ロープブリッジ救出
- H 29. 8.23 第46回 (宮城県) ロープブリッジ救出



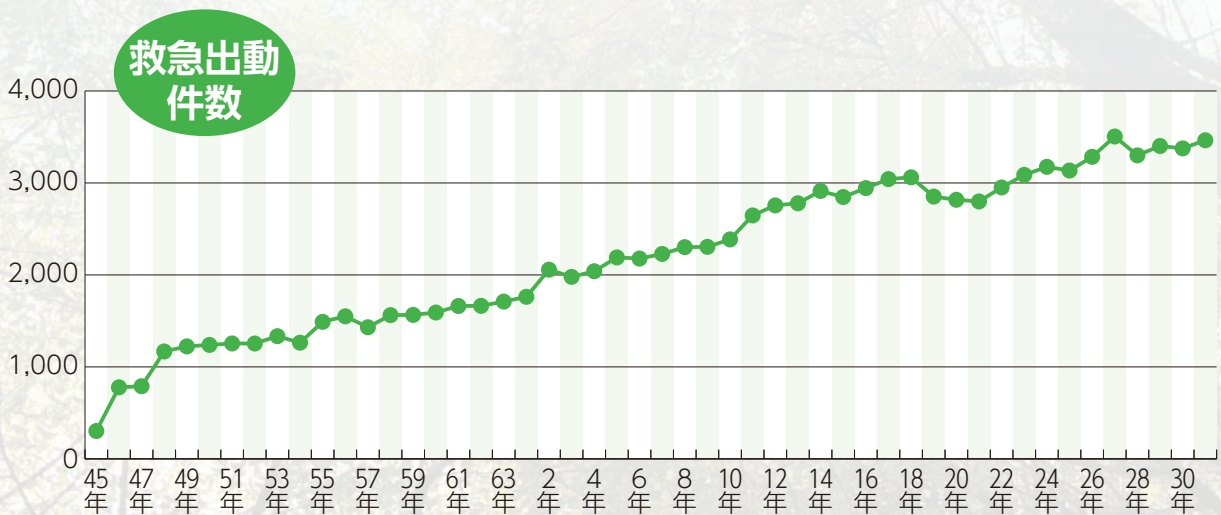
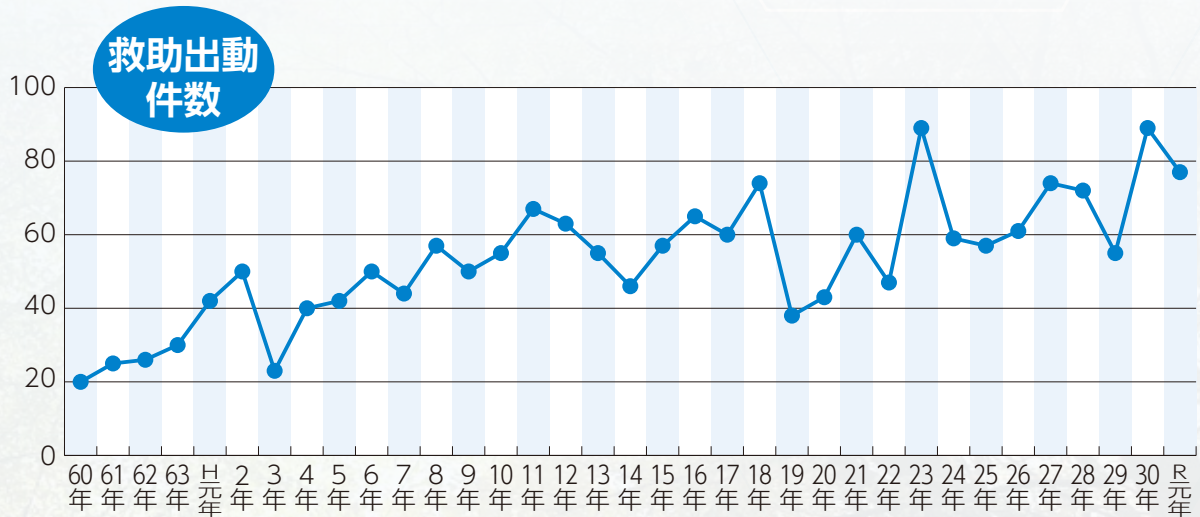
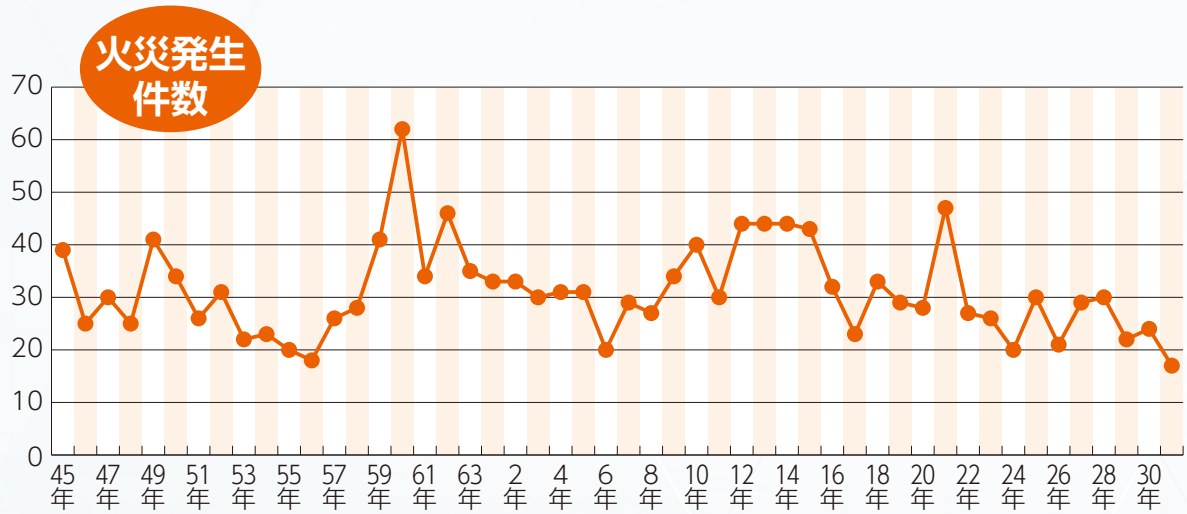
第46回全国消防救助技術大会 (宮城)

## 東北大会

- S 62. 7.23 第16回 (仙台市) ロープブリッジ救出
- S 63. 7.19 第17回 (仙台市) ロープブリッジ救出
- H 2. 7.19 第19回 (山形市) ロープブリッジ渡過・ほふく救出
- H 3. 7.24 第20回 (仙台市) ロープブリッジ救出
- H 4. 7.16 第21回 (秋田市) ほふく救出
- H 6. 7. 7 第23回 (福島市) ロープブリッジ救出・ほふく救出・引揚救助
- H 7. 7.20 第24回 (仙台市) ロープブリッジ救出
- H 8. 7.25 第25回 (青森市) ロープ登はん・ほふく救出
- H 9. 7.17 第26回 (仙台市) ロープブリッジ救出・ロープ応用登はん・ロープ登はん
- H 10. 7.23 第27回 (盛岡市) ほふく救出
- H 12. 7.13 第29回 (新潟市) ロープ登はん
- H 13. 7.12 第30回 (仙台市) 引揚救助
- H 14. 7.18 第31回 (山形市) 引揚救助
- H 15. 8. 5 第32回 (仙台市) 引揚救助
- H 18. 7.20 第35回 (福島市) ロープブリッジ救出
- H 19. 7.26 第36回 (仙台市) 大会中止
- H 20. 7.24 第37回 (青森市) ロープブリッジ救出・引揚救助
- H 21. 7.23 第38回 (仙台市) ロープブリッジ救出・引揚救助



# 管内の火災発生・救急出動・救助出動の推移





消防長  
岡村一郎

## あしがき

このたび、南魚沼市消防本部では、発足50周年という節目の年を迎え、消防の足跡を記録した記念誌を発行することとなりました。当消防本部は、昭和45年1月から旧六日町・旧塩沢町の2町で消防事務組合を設立し消防業務を開始しました。その後、湯沢町、旧大和町が加入し南魚沼地域全域をカバーする広域消防へと拡大され、現在は、1本部、2署、1分署、職員数106名体制で消防団と連携しながら、市民の安心、安全のため日々活動を行っているところです。

この間、全国各地では、大規模かつ特殊な災害の発生もあり、消防を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。新たな災害に対応するため消防装備の充実が図られ、消防関係法令も改正され、設立当時から比べると業務の内容も専門性が高く、高度な知識が要求される時代へと様変わりいたしました。

当消防本部では先輩諸氏のたゆまぬ努力やご尽力により、様々な改革や整備が進められ、今日の盤石な消防体制が構築されてきました。そのご功績に心から感謝と敬意を表します。

近年、全国各地で大規模な自然災害や大地震、火災、重大事故が多発し、災害は複雑多様化する傾向にあります。さらに首都直下地震や南海トラフ地震の発生も危惧されるなか、消防に寄せる住民の期待は大きいものがあります。50年の歴史を振り返り、先人が残してくれたよき伝統を引き継ぐとともに、南魚沼地域の安全、安心を確保するため、これからも全力で取り組んでいくことをお誓い申し上げます。

結びに、市当局をはじめ、市議会、防火協会、危険物安全協会等の関係団体の皆様からは長年にわたり、多大なるご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。この小誌が南魚沼市消防本部に対するご理解を深めていただくうえで、お役に立てれば幸いです。

## 編集後記

南魚沼市消防本部では昭和45年1月から常備消防発足50周年を迎えるにあたり、この記念誌を発行いたしました。

発足からの50年を振り返りますと、地震・火災・水害・トンネル内爆発事故など非常に大きな災害に見舞われてきたと思います。その際、諸先輩方は現在と比べると、人員・装備・資機材などが十分でない中、勇敢に各種災害に立ち向かい、市民・町民の安全・安心を守られてきたのだと、あらためて大きな感銘を受けたところであります。

これからも諸先輩方の培ってきた技術・精神を伝承していく所存です。

最後にこの記念誌発行にあたり御協力いただきました関係各位に、心より感謝申し上げます。

令和2年2月

### 50周年記念誌「翔」

編集 南魚沼市消防本部  
〒949-6405 新潟県南魚沼市竹俣82番地2  
TEL. 025-782-9119(代)  
発行日 令和2年2月10日  
印刷 カクチョウ印刷株式会社

